

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）
「拠点病院集中型から地域連携を重視した HIV 診療体制の構築を目標にした研究」
令和2年度 分担研究報告書

【研究分担課題名】 HIV 患者の社会的背景やニーズ、不安、差別体験が治療継続に及ぼす影響に関する研究

研究代表者：猪狩 英俊 千葉大学医学部附属病院感染制御部長 准教授
研究協力者：古谷佳苗 遠藤千鶴 斎藤陽子 岩崎春江 木暮みどり
千葉大学医学部附属病院 看護部

研究要旨：現在の HIV 診療は拠点病院集中型であるが、将来的に拠点病院だけでは患者の療養生活を十分に支えることは難しく、HIV 患者に対する地域包括支援のニーズはますます高まっていくと考えられる。医療者は、地域医療の整備を進め患者がより利便性の高い地域医療機関に安心して通院できる環境整備が必要と考えている。

しかし医療者の構築しようとする地域医療体制と患者の思いやニーズに乖離があれば、構築したシステムが十分に機能しない恐れがある。

HIV 患者の過去の地域医療機関の受診経験の有無と地域医療機関受診に対する思いや千葉大学医学部附属病院感染症内科（以下当院）への通院に対する思いの違いに着目した。HIV 患者の地域医療機関受診の有無が地域医療機関受診に対する考えや当院への通院に対して影響を与えるのかを明らかにすることを目的とし、HIV 患者へのアンケート調査を通じて、患者の思いやニーズを探ると共に、将来的な地域医療体制の構築における看護師の効果的なアプローチ方法について検討を行った。

A. 研究目的

本研究では HIV 患者の地域医療機関受診の有無が地域医療機関受診に対する考えや当院への通院に対して影響を与えるのかを明らかにすることを目的とする。

B. 研究方法

1) 調査対象：千葉大学医学部附属病院の感染症内科へ外来通院している全ての HIV 患者

2) 調査時期：2019 年 7 月から 10 月までの 4 か月間

3) 調査実施方法：受診行動に関する下記の 5 つの項目からなるアンケートを作成した。（アンケート項目は以下のとおり）同意を得られた HIV 患者へ実施した。各質問について、看護師が平易な言葉で説明し意図を説明したうえで患者のみ個室に残し率直に記載をしてもらうようにした。

(1) HIV 感染診断後の地域医療機関受診の有無

(2) 将来的な地域医療機関受診の必要性

(3) 地域医療機関を受診に関する患者の考え

(4) 過去の地域医療機関受診時の体験

(5) 当院に受診している理由

4) 分析方法： HIV 感染が判明した後に地域の医療機関に受診したことがある群と受診したことがない群に分け、項目 (2)、(3)、(5) の質問ごとに Mann-Whitney U Test にて分析をした。

C. 研究結果

アンケートは対象者 296 名のうち 111 名に施行できた。回答者は男性が 99 名、女性が 12 名であった。

HIV 感染が判明した後に「地域医療機関に受診したことがある群」（以下 A 群）は 87 名、「地域医療機関に受診したことがない群」（以下 B 群）は 24 名であった。A 群 B 群で有意差があった質問は少なかった。B 群の方がより地域医療機関の「受診先がわからない」、かかりつけ医の必要性も A 群ほ

ど感じていない結果だった。A 群ほど地域医療機関では「他者に感染がわかってしまうのではないか」という不安感があった。B 群は A 群に比べ当院の医療提供について「医師や看護師以外の医療関係者が自分の話を聞いてくれる」と思っていた。

D. 考察

過去の受診体験は今後の地域医療機関受診および当院通院継続に大きく影響しないことが示唆された。

一定数の患者は、信頼できるあるいは通い慣れることができる地域医療機関への受診の必要性を感じつつも、自らの将来と結びつけながら具体的な受診先をイメージするに足る十分な情報は得られていないと考えられる。

患者は HIV 感染者であるという情報は何よりも他者に知られたくない情報であり、医療機関においてその保護こそがより重要なニーズであると思われる。

HIV 患者の思いに配慮した態度や関わりを医療者側が心掛ける必要性を地域医療機関と共有することは、患者が安心して受診できる医療機関の確保につながり、地域医療体制の構築において重要なことだと考える。

地域医療機関で多職種が患者をサポートできる環境が望ましい。また、支援をコーディネートする役目を看護師が担うことでタイムリーな関わりの実現につながるのではないだろうか。

看護師は、患者の全体像を捉え、患者の希望や身体状況を踏まえながら、患者の療養生活を整えたり連携を図ったりするコーディネーター業務を担うことが多い。地域医療機関への受診についても同様に、患者へ必要な医療を提供できる場の保証、知識の提供、スムーズな連携を図るうえで看護師の担う役割は今後さらに重要となる

だろう。

E. 結論

本研究から HIV 患者をより適切な医療機関で支えていくために、医療者側の準備に加え、患者側への教育も必要だと考える。千葉県における HIV 診療の構築に向け多職種と共同してマニュアルの整備やパンフレットの作成を通して啓蒙活動を行いたい。

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
第34回日本エイズ学会. 2020;22(4):503

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし